The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中井履軒『非物継声篇』翻刻
Author(s)	湯城, 吉信
Citation	懐徳堂センター報. 2008, 2008, p. 25-43
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24424
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

懐徳堂センター報２００８　（大阪大学大学院文学研究科・文学部　懐徳堂センター　二〇〇八年二月二九日発行）

中井履軒『非物継声篇』翻刻

湯城　吉信

前言

本稿は、中井履軒撰『非物継声篇』の翻刻である。

同書は、師である五井蘭洲の遺志を継いだ履軒が、荻生徂徠に対する批判を展開した書物である。懐徳堂学派には、五井蘭洲『非物篇』、中井竹山『非徴』という有名な徂徠批判の書物があり、ともに、天明四年（一七八四）、懐徳堂から刊行された（ともに懐徳堂文庫復刻叢書で復刻されている）。それに対して、同じく徂徠批判の書である履軒著『非物継声篇』は、未定稿で文字が読みにくいこともあり、これまで翻刻やきちんとした紹介がされてこなかった。

『非物継声篇』は、履軒自身の説をまとめたものではなく、蘭洲の説を拾ったものだという説もあり、いまだ是非の決着を見ていない（注）のも、本書の解読が困難であったことがその大きな要因だと言える。だが、以上の状況を見ればわかるように、本書は、履軒の思想を解明する上でも、また、懐徳堂学派の徂徠批判の実態を明らかにする上でも、重要な資料である。

以上のような状況に鑑み、本稿では『非物継声篇』の全文の翻刻を行う。解読できなかった箇所については、博雅の士のご教示を賜りたい。

（注）「懐徳堂水哉館遺書遺物目録」（『懐徳』十七、一九三九）は履軒の著とするが、加地伸行編『中井竹山・中井履軒』では、履軒が蘭洲説に対する疑義や意見を記したものだと考えているようだ（一九〇頁：山中浩之氏執筆部分）。一方、陶徳民『懐徳堂朱子学の研究』（大阪大学出版会、一九九四）は、『非物篇』に漏れた蘭洲の説を履軒が輯録したものとする（二〇三頁注六）。湯浅邦弘編『懐徳堂文庫の研究２００５共同研究報告書』四四頁の藤居岳人氏の『非物継声篇』解題も陶氏の説を踏襲する。筆者は、『非物継声篇』は履軒が自説をまとめたものだと確信する。この点は、別稿で述べたい。

『非物継声篇』の著述形式

まず、該当章名を挙げ、字を下げて徂徠『論語徴』の発言を取り上げて、その後に自らの批判を述べる。

六葉裏までは半葉十行二四字で丁寧に清書されている。叙述形式は、まず「～章曰」として徂徠『論語徴』の文句を抜き、改行後、自らの批判を述べる。ただし、余白に後に加えられたものだと思われる小字による書き入れも多い。七葉表以降は、塗抹、見せ消ちが多い草稿だが、章の後に字

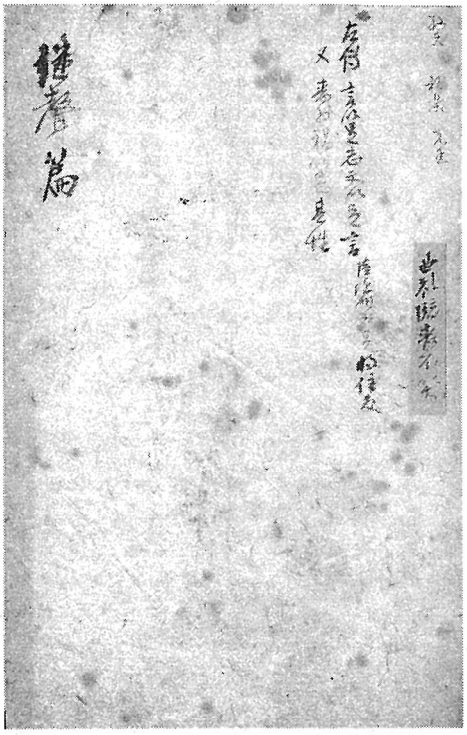
を下げて徂徠の文句を引き（省略が多い）、その後に改行して自らの批判を書くという形式は一定している。

『非物継声篇』の書名

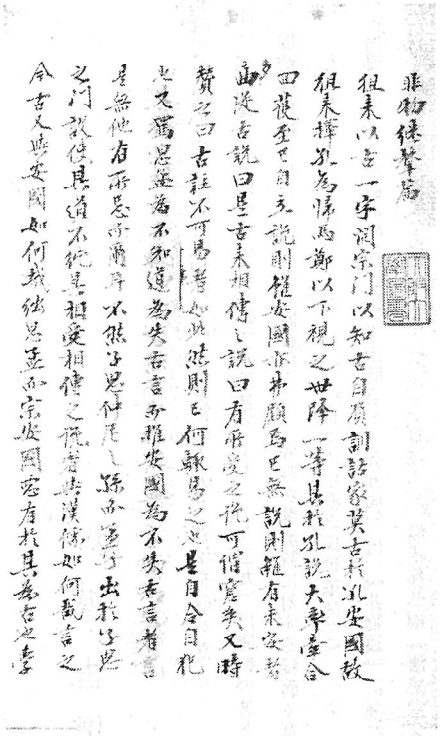
書名は、原表紙、後表紙ともに「継声篇」とだけある。ただし、序文の後の本文冒頭には「非物継声篇」とある。

凡例

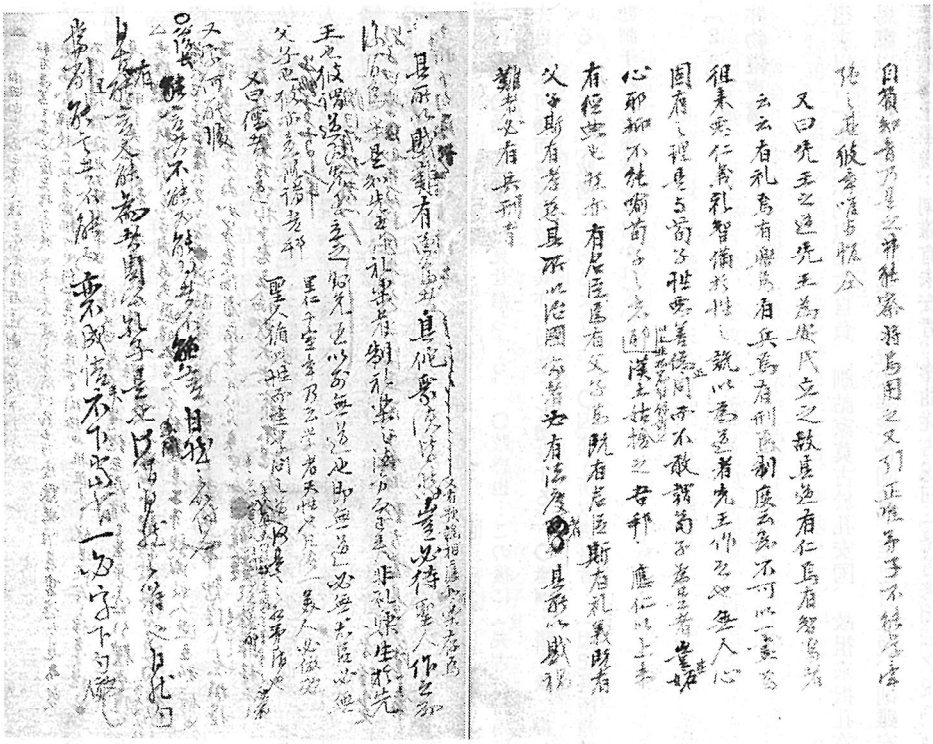
・漢字は現代通用字に改めた。
・適宜、句読点を施した。
・引用部分には「　」を、書名には『　』をつけた。
・葉数は〔3a〕（＝三葉表）のように示した。
・〔入紙〕〔追加〕など、本文にない追加情報は〔　〕で括って示した。
・塗抹、見せ消ちは非常に多く、解読の困難なものが多い。解読可能で重要だと思われる見せ消ち部分のみ、取消線を施して翻刻した。
・本文の後に、【校勘】として、適宜、校勘をつけた（本文には「＊」で明示）。
・解読に自信のない箇所は、直後に（?）を挿入し、解読不能箇所は「□」で示した。



『非物継声篇』原表紙



『非物継声篇』冒頭



『非物継声篇』草稿部分　（6葉裏～7葉表）

翻刻

〔原表紙表〕

敬天　礼楽　先王　曲礼　臨喪不笑*

陸徳明云、足将住反

左伝　言以足志、文以足言

又　嗇於禍以足其性

【校勘】○臨喪不笑…貼り紙に書かれている。

〔原表紙裏〕

左氏成十三年　呂相辞命曰、諸侯疾秦、将致命于秦。

〔印〕「大阪大學圖書之印」「天生寄進」「懐徳堂圖書記」、受入印「昭和29.12.22受入/105033」。

〔1a〕

継声篇序

予之童年嘗過庭請教焉。「方今、物氏之言満天下。其非正論也、業已聞命矣。然不読其書、徒以其言之非正論、猶臨淵而料山木也。請読其書而究其言之非正、可耶」。先君子曰、「然。唯汝未能識正論之為正、焉能究非正論

之非正也。汝其勉学焉。毋恤其佗。其既能識正論之為正乎、非正論之非正、乃可以究矣」。余唯々而退。又見於蘭洲先生而問焉、而誨之亦猶先君子之言也。既窃読先生所著『非物篇』、略識物氏之非。後在友人許閲『物集』、又識其不工於文辞也。欠伸不能終、至其『論語徴』、愈益厭之、擲巻不復閲焉。今茲奉先生遺命、校定『非物篇』、不得不比校〔1b〕於『徴』及『二辨』。於是乎、詳其始末、究其閫奥、其学術之編以至志意之微。夫紕繆所由始*与愎戻所以終、一無逃吾鑑也。乃恍然有省、嗟呼、懿哉、昔人之誨吾也。使余読是書在十年前也、未必無小眩惑也*。宜也乎、程夫子、所謂仏之説避之宜如淫声美色、為学者言也。物与仏、其言猶氷炭而所以惑世害人心者一也。凡其説『非物篇』詳焉、無復遺憾。然執役之際、時覩泄綱*之鱗、則口不能自噤、手不能自掣、輒録校箧中。役畢、就輯次、命曰継声篇。因述昔人所以誨吾者*、以詔道学小子。

【校勘】○始…「起」を見せ消ちする。○眩惑也…この後に「夫古之善為戦者、先自為不可勝而後策勝敵、其亦有似哉」を塗抹する。○泄綱…張り紙に書かれている。下には「跋扈」とあるようだ。○因述～所以誨吾者…「因記吾所藉昔人之懿訓于此」を塗抹して書かれている。

〔2a〕

非物継声篇

徂来以古一字開宗門以知古自負。訓詁家莫古於孔安国、故徂来択孔為帰、馬鄭以下視之世降一等。其於孔説大率牽合回護。至己自立説、則雖安国亦弗顧焉。己無説、則雖有未安者、多曲従古説曰「是古来相伝之説」、曰「有所受之説」、可謂窘矣。又時賛之曰「古註不可易者如此」、然則己何輒易之也。是自令自犯也。又罵思孟為不知道為失古言而推安国為不失古言者*。是無他、有所忌而爾耳。不然、子思仲尼之孫、而孟子出於子思之門、設使其道不純、其相受相伝之説者、与漢儒如何哉。言之今古、又与安国如何哉。紕思孟而宗安国、悪有於其為古也。学〔2b〕者有見于此、庶幾弗蹈其陥穽矣、而思過半。

【校勘】○又罵～不失古言者…張り紙に書かれている。その下には「其援荘列諸子及漢儒之書輒曰古言然也。至於思孟之言、独為失古言」とある。

徴曰、「論」属之弟子、則『国語』『家語』何別。『斉論』『魯論』何謬。非曰、『斉論』『魯論』、是『斉論語』『魯論語』之略言、竭後之語、童子且知之、何物翁之自紛。

其族有為大夫者、則「子」帰之。其它否。烏知子貢子路游夏之儔、其族不有為大夫者乎。

字連子称之達于古今通于上下、猶称「甫」也。非大夫之族、則不得字連子而称焉、是出于何伝記。

〔入紙一葉〕（＊入紙はすべて学而篇）

慎終追遠曾子語――為安民而設故爾。

行文潦草、意不分明、似謂先王制喪祭之礼、非徒然、民情好厚有厚徳者、民帰服之、先王欲民之帰服于我也、故特制喪祭之礼、以厚自居以誘民也、果然喪祭非誠敬以為之矣、乃誘民之具耳。宛然覇者之権数矣。仲尼之門、童子羞称焉。曾子孔門高第弟子而不之羞耶。

〔入紙二葉表〕

万乗千乗百乗、古言也。

『論語』『孟子』諸書有万乗千乗百乗之目。皆据当時而立言也。非以始封之制而論也。其為数雖挙大概也、亦非絶無計較者。千里之賦出万乗、三百餘里出千乗、百里出百乗、定数也。故百里内外則謂之百乗、千里内外則謂之千乗*、非諸侯概為千乗、大夫為百乗。且万乗定為天子之称者、後世之言耳。『孟子』不言乎、「以万乗之国伐万乗之国」、斉与燕也。又言「方千里者九、斉有其一」。又言「孟献子百乗之家」、献子之富略有百乗也。徂来又引千金之子*為証。然此却足証其説之比*也。今有富者、其貲不満百金而称之為千金*之子焉可也。貲必千金内外、乃謂之千金之子耳。不探其襄、亦略可知矣。抑魯之三桓、晋之六卿、可謂富耳*、而三晋則大矣、尾大之患、於魯侯在亂侯康叔絶祀見之。徂来乃以尾大病之何哉。彼必以周之制度而言耶。斉魯之始封俠(ママ)於百里、則国唯有百乗耳。焉得称大夫為百乗。彼之説無一当。

【校勘】○千…「万」を消す。○比…「非」の誤りか。○千金…この後に「且貲百金貲為富、故称富者必以千金耳。亦豈須探其襄哉。如徂来可謂昧乎古言」と挟まる。○耳…「矣」の上に書く。

〔入紙二葉裏〕(朱筆)

弟子入孝章

集注援尹説論本末、又援洪説論文質、其意略足而有未透徹、故又発一段言、非但失之於野而已。其言文之不可以不学也。徂来所謂「未免為郷人」之意、既備於集注、而本末之義又森然不可紊矣。徂来読集注、不知作何解、而為此暁々者哉、蓋亦昧乎文理之故爾。

賢賢章

徂来曰、凡由致者、皆謂使之至也。是固然也。唯至亦有主義。使彼至于此者、「致富」「致福」是也。使此至于彼者、不可相混矣。又非彼非此使之至極者、「致敬」「致哀」「致中和」是。

〔入紙ここまで〕

○学而

信近於義章曰、「復」協「辱」、「親」協「宗」、易象之辞為爾。

〔3a〕

「復」可以諧「辱」、「親」「宗」則不諧。彼妄誣易象可憎。易象無以「親」字「宗」字為韻者。

又云、「朱子以為有子誨人之事者、誤矣」。「為」字当削。不然不可読。即必用「以為」字、当書「朱子以有子之語為誨今之事、誤矣」。

彼自負古文辞、而操唐音、而其為和訓所誤、往々如此、人宜(?)察諸。

○為政

道之以政章曰、「感」「格」声音相通。

「格」豈与「感」音通哉。妄説可憎。彼染指象胥者流、輒囂然以知音自居、動模糊呻吟撰出古音以済其邪説、是無佗、為象胥者流所誑也已。夫象胥亦烏能知音。世人以其常与漢客居也、無容疑爾、特不知其漢客本不知音也。李義山『雑箋』以「閩人読書」在「不可曉」部中。漢客来販長崎、大率閩人云。王充有言曰「跣跗被商鳥重訳吟詩書」。徂来喜漢儒之言、盍省焉。

〔3 b〕

志学章曰、六十而耳順、人雖有逆耳之言、其心以為彼之過、我之不以為逆也。

如是則孔子六十以前毎有逆耳之言、輒怒不能容也。吾未見如是小量聖人也。

〔追加〕(朱筆)

徵曰、志于学云者、孔子在学而有所志也。又曰、孔子之立、謂学之成也。

○以「志学」之「学」為「学校」、文意不順、甚矣。且経文有「学」字、則彼必以為「学業」、経文無「学」字、則彼必以為*「学業」、其愎如此。是無他、強欲異于先儒之故耳。

【校勘】○為…「力」に見えるが文脈から「為」とした。横に「非」と振られている。

〔追加〕(朱筆)

不器章

包氏固不以「君子」定為「人君」、何有人君自用之嫌哉。徂来僻見以「君子」為「人君」、然後病包氏以人君自用之事、誣亦甚。

〔追加〕(朱筆)

知之為知之章

徵曰、以不知為知者不知之失也——

誣其不知為知者自古有之、唯性之剛者多有是病、非必不知之故。近世亦不乏是人、而徂来可以(?)尤者、乃謂「不知之失」而非欺罔、豈彼自為諱也邪。

挙直章曰、挙直錯諸枉、挙枉錯諸直、蓋古言也。而孔子引之也。『孝経』曰、「非先王之法言、不敢道」。古之道若是焉。後儒不知廼謂聖人以意造言、謬矣哉。

然則「学而時習」至「不知言無以知人」句々皆古言耶。雖徂来之執拗、亦不能挙『論語』為古言也。但覩字句古瘦肖『尚書』周官者、輒目為古言、律以『孝経』、強孔子以非先王之法言、不敢道。然彼〔4 a〕誣為古言者『論語』中万分之一而已。其餘孔子之敢言也、則孔子非邪。夫孔子周人也。奚嫌於言之古、充徂来之言、孔子不能吐一句肖『尚書』周官也。又不得造一句教誨之語、終日与人辨論句々拈出先王之法言、若李攀龍作文章然、不亦厲乎。

〔割注〕観過章、三年無改章、主忠信章、狂簡章、楽山章、為山九仞章、剛毅木訥章、不逆詐章、子貢問為仁章、堯曰章、徂来皆以為古言、可参看。

〔追加〕

徂来毎主張「作者之謂聖」之語以為孔子雖非作者以其徳堪作礼楽、故謂之聖。据彼之説、孔子之才之徳得位則可以作礼楽、未得位則不得造一言語也。天下豈有是理哉。

書云孝乎章曰、朱註解「乎」為如「此」、大誤矣。

按朱註書云孝乎者、言書之言孝如此也。是以意釈之如此、二字正指、惟孝

友于兄弟二句、未嘗以解「乎」字、則「乎」字依然疑而定之辞矣。未嘗解「乎」為如此。徂来鹵莽読書、其不通於文理如此。

〔追加〕（朱筆）

輗軏章

徂来ハ信ノ字ヲ信向ノ信ニ説タリ。駁スベシ。

〔4 b〕

○八佾

林放章曰、大抵宋儒忽略字義、遷就以成其説。

徂来毎言宋儒据字義為解、不知古言、今忽反其説、吾不知其所謂。

〔追加分〕

雍徹章　都兪吁咈

禘自既灌章曰、「灌」「盥」「祼」通用。

推「盥」混於「灌」、可謂妄説。夫祭祀宴享之礼、皆盥以潔手、即以「盥」混於「灌」、則洗手謂之何。

又曰、何註以来以魯郊禘非礼為説、不知何以知其為魯邪。

魯有禘祭而孔子嘗観之、故中庸「吾不欲観之」。若周之禘、孔子焉得観焉。固無得欲観不欲之語、豈不彰々明乎。

〔5 a〕

又曰、夫灌而易能乎、則易何以言観盥而不薦乎。盥而不薦有孚顒、若凡行礼之人皆然。故易取之為観象耳。豈難能之謂耶。殊為不通。

禘説章曰、古註云々、是不知「示」之為「眎」也。「其如示諸斯乎」、如視天下於掌也。『孟子』曰「武丁朝諸侯有天下、猶運之掌也」。語勢相同。

是攘朱註為己物、傲然若己独知之者。如是之類不遑枚挙。徂来門人大率浮躁、或狂妄藍出至有終身不知朱註一句、輒挙「示」之類「眎」之類、抗言曰「是吾師説、一洗万古者、宋儒無瞳曽不窺一班、真不堪捧腹、抑亦徂来之罪也。

王孫賈章曰、以知天自負豈不倨。

〔5 b〕

己不知天、故嫉人知天。一生講学老死不知天、亦可憫矣。乃自以不知天為是、其陋弗可薬。

周監於二代章、駁仁斎而曰、孔子引林放、豈非悪其奢耶。凡与人辨論、引彼之嘗所是、以喩今所非之非、引彼之嘗所非、以喩今所是之非、可也。如泰山悪奢之説是徂来之臆説、仁斎未嘗有如是説也。乃拠以規仁斎曰、豈非悪奢耶。仁斎必曰、固非悪奢矣。是烏成辨論。如徂来、可謂不知言語之道矣。

射不主皮章曰、朱子蓋疑「為力」之為「力役」、遂以「主皮」為「貫革」耳。

拠彼之説、当云「疑『為力』之非『力役』」。彼累於和習如此。

告朔章駁仁斎曰、此其人尊孟子過於孔子、故為此言耳。

〔6 a〕

仁斎謂『論語』為宇宙第一書、徂来豈不之知乎。蓋釁婢之詬罵往々過実云。

事君尽礼章曰、勇者有所矜而言激。

是句於上下文無所当而妨其本説。蓋彼剽窃為文務眩人目、故不知不覚至于是耳。

○里仁

〔追加〕

志仁章

徴曰、孔安国曰、苟誠也。其為語助矣。

朱注沿孔注作誠実解。其於本文之当否姑置之、孔注朱注無二義矣。彼駁朱注而褒孔注、以為莫尚焉、何哉。且言孔曰誠能審其為語助矣、夫以誠字為語助、古来所無。安国復生、必抵手称怪者。徂来一生依安国作生活、其於安国之説、必牽合附会以称己（已?）。抑解誠字為語助者、亦自累於諺音云爾。豈可不憫笑哉。

未見好仁章曰、「乎」猶「則」也。朱子以為歎辞、非矣。

「乎」詰問之辞、訓「乎」為「則」、妄説耳。以為歎辞、集注無之。

一貫章曰、如男唯女兪（内則）、「兪」訓「然」、則「唯」亦「然」。

「唯」「兪」並然之之声、故「兪」訓「然」、亦解其意耳。其実与「然」不同。徂来〔6 b〕自負知音乃是之弗能察、将焉用之。又引「正唯弟子不能学」、奪強之甚。彼章「唯」与「惟」仝。

又曰、先王之道、先王為安民立之、故其道有仁焉*、有智焉者、云々、

有礼焉、有楽焉、有兵焉、有刑焉、制度云為、不可以一尽焉。

徂来悪仁義礼智備於性之説、以為道者先王作之也、無人心固有之理。是与荀子性悪善偽正同、而不敢謂荀子為是者。豈其妬心耶。抑不能喩荀子之意耶。漢土姑捨之、吾邦　応仁以上未有経典也。然亦有君臣焉、有父子焉。既有君臣、斯有礼義。既有父子、斯有孝慈。其所以治国家者、必有法度者、其所以戡禍難者、必有兵刑者。

【校勘】○焉…『論語徴』原文「者」。　○この横に、小字で「以上、『非物篇』附録詳之」とある。

〔清書と思われるのはここまで〕

〔7 a〕

其所以戡難、有勇焉者。其佗衆徳皆然。又有歌謡相応和而楽存焉、豈必待聖人作之而後有焉乎。是知先王作礼楽者、制礼楽之法方而已矣、非礼楽生於先王也。彼謂過為先王立之、則先王以前無道也。即無道必無君臣、必無父子也。彼亦盍視諸吾邦。

〔追加〕里仁十室章乃云、学者天性也。凡有一美、人必倣效。聖人循此性而建学問之道。

何其言之相矛盾也。

夫人有一美、何故效（？）之世、非已有善善之心。善善之心豈非人性固有之善耶。

又曰、儒者之道

「又」字何所拠。

○公冶長

〔＊「雍也仁而不佞」章〕

能言者不能為、能為者不能言、自然之符也。

自古有能言又能為者。周公、孔子、是也。何謂「自然之符」也。「自然」句当削。且「能言者不能為」亦不成語矣。「不」下当有一「必」字。下句倣之。

〔7 b〕（「不堪為辨」まで朱筆）

△ 徵曰、南容為三家之族、三家者値有道則必廃——

「邦有道而三家必廃」者、殊不可暁也。夫三家魯之宗卿、何罪而可廃黜也。唯其専恣太甚、有賢君出、則減損之収其威柄、可也。何必至於廃斥下之間伍也。据徂来之説、是比今之諸侯而殊（誅？）之、不復待教誨也。大殊其平日之論。又曰、聖人豈絶無避嫌之事乎。遂引礼文、証之、是大暗於文理矣。礼之「決嫌疑」与「避嫌之事」異貫、如「男女不親授」「嫂叔不通問」「入内不嚮不指」之類。所謂（？）

△「決嫌疑」也、是釈礼之意云爾。若其「避嫌」云者、人不敢薦其子弟親戚、故人避立私之嫌也。薄於己之子而厚於兄之子、避溺愛之嫌也。凡是之類、皆帯勉彊之意、故程子謂賢者且不為如第五倫省病事、可以見矣。男女嫌疑之事、是礼□（中？）之意、非程子之意所及、徂来乃引柳下恵立論、既大失窾、不堪為辨。

子路有聞章

徵曰、「唯恐」者門人之——

孔子曰「学如弗及、猶恐失之」。文法正同、此類古書甚多、皆一草読下者未析下句属記者（？）之語矣。

〔8 a〕

季文子三思章

徵曰、季文子三思而後——再斯可矣。是孔子断其妄已。言季文子悪能三思、苟能再斯可矣。

是章言凡事区処已定、可否已決、然後更審思之、以察其能無妨碍疵累、斯謂之「再思」。「再思」既察可謂完矣。乃更復一審、斯謂之「三思」、是過慮已。過慮則惑。文子蓋謹慎鄭重不敢輒作者。時人誉其三思而行而不知文子受病在於過慮生惑也。故夫子断之曰「再斯可矣」。然其決可否定区処非思不獲者、雖乃千思万慮、夜以継日可也。皆一思中之事、与再思三思無相渉。故朱子曰「思之有未得者、須着子細去思。到思而得之、這方是一思」。徂来所援証以「思無益不如学也」「欽明文思」「思曰睿」「心之官則思」「思兼三王」、皆是「第一思」之「思」、非「再思」「三思」之「思」。夫子何禁之為。徂来鹵莽読書、故不能察文意、謂据程朱之解、是夫子禁多思与諸経伝不合、殊不知夫子所誡、唯〔8 b〕決後之三思而不在於未決之多思也。

【校勘】○区処…「思慮」を見せ消ちして書く。

〔＊伯夷叔斉章〕

〔9 a〕

楚滅同姓、田氏簒斉

春秋之時、滅同姓者衆矣。如晋滅虞虢、衛滅邢、不独楚。且滅同姓国与弑君而簒国、大有径庭。据彼之説、田斉数世之後、謂為有旧悪、猶可也。滅仝姓之悪、安容論於数世之後。言語失当如是、何古文辞之有。

足恭〔*巧言令色章〕

徂来又引易象、然過恭与足恭殊、過恭猶甚恭也。足恭乃故意憎添乎恭敬以釣人之歓耳。是自（?）在心術上。徂来所不知。

○雍也

「可也」一句、「簡」一句。不爾、不成語。

是暗詆朱註。然朱註解「可」字有異耳、句読不異也。徂来〔9 b〕麁性読書、亦可笑。

〔追加〕

徴曰、孔安国曰「以其能簡、故曰可也」。古註不失古義如此。

彼称揚古註、欲以貶朱註也。然朱註意亦如是已。『語類』曰「夫子云、此人亦可者、以其簡也」。徂来又云「朱註云々、其意如謂夫子雖許之、尚慮其失於簡、故曰『可也』」。是大失孔子之意。誣亦大甚。

雖廃亦在道之中〔*「冉求曰…中道而廃」章〕

徂来不知譬喩、誤以「道」為「道芸」。種々疾痛、自是而生矣。今皆不辨。

祝鮀章

「佞」古称口才

当孔子之時、世俗以佞為美称、曰「雍也仁而不佞」惜之也。孔子則悪佞曰「焉用佞」曰「遠佞人」曰「佞人殆」。蓋深絶後世学者守孔子之教、莫之変也。徂来則以〔10 a〕佞為美徳是*古言也。而孔子之時之世俗之論也、非孔子之意也。乃以解孔子之論、不亦謬乎。後世学者篤尊孔子言、必折衷乎孔子。徂来則唯古言是尚、不問当否、後之言雖正議而廃之、古之言雖俗論而取之、遂詆後世尊孔子者、又拘湾孔子之語以自附。蓋孔子所謂佞、徂来其人也。

【校勘】○是…横に「真」字あり。

由戸章

戸聖人所作

雖穴居者、豈無出入之竇也。竇即戸也。出由戸、豈必謂扇与闔*之謂耶。夫不知文理者、安足与論文焉。

【校勘】○闔…闕か。闔か闕かどちらかを見せ消ちする。

〔10 b〕

「謂為自然」句不成文理。

文質章

「大過」、過也。「小過」、不及也。

『易』曰、「山上有雷、小過、君子以行過乎恭、喪過乎哀、用過乎倹」。未

聞以「小過」為不及也。

中人以上章

道莫有上下

道固無上下。然有上智所知者、有中人所知者。故中人不能知者、名為上焉耳。譬之病人、其羸瘦辟易不待医而知焉、而其所以致羸瘦辟易者、非良医不能知矣。病豈有上下精粗。亦從所知者而言焉耳。故道一也、而有上〔11 a〕下、有精粗、岐之不可也。徂来之徒、安足与知諸。

聖人之道微、而邪説興焉、中人以上之資、亦相率陥没焉。程朱子所以反復丁寧焉者、欲有人救之而已。豈聒於下愚之人耶。読其書可見矣。余窃疑徂来以博学自負、然観是等語、似目未嘗経程朱之書者、何也。

徂来文解中庸章中、中庸謂不甚高而易行也。聖人之道更有広大焉者、有精微焉者、有高明焉者。故以中庸為道者、非也。

〔11 b〕

○述而

黙識章

「力」字句絶

協韻句絶、不待徂来而知也。然彼以諧韻為「帝之力」句、意為（？）上文之証。果如其説、則『毛詩』不可読者、多矣。其説之牽強、不足辨矣。

徳之不脩章

「脩」者務美之也。

夫「脩」者修復之義、必有所承之言。如「脩飾」「脩潔」「脩治」、掃塵除垢使潔浄、謂之「脩」。傅粉施紅之類、謂之「飾」。字各有当也。彼之引〔12 a〕此、秖授人類而已。『左氏』所称「修好」「修怨」之類、不知彼何辞解之也。蓋修身也、修徳也、可以見人性之本善矣。彼不知性善之説、宜乎、其説之窮也。亦可憫笑。

夢周公章

仁斎之於宋儒、一如仏氏、所謂有宿冤者邪。

徂来於宋儒其得宿冤耶。盍自省焉、乃詆仁斎乎。此之謂獼猴唾臀之殷。

〔12 b〕

志道章

私欲尽去、苟不仁乎、則達磨矣。

人而不仁、以其有私欲也。私欲尽去当不仁、未之有也。蓋私欲尽去、則所存者何耶。曰、公也。即仁、即天理、則豈有不仁者哉。彼動以達磨嚇人、是以達磨為私欲浄尽者耳。殊不知達磨者私欲之魅也。蓋達磨所能絀者、特耳目口鼻之欲而已。其所以絀耳目口鼻之欲者、以其有私欲大於耳目口鼻之欲焉者。然徂来之徒安足以〔13 a〕知之。

〔＊「用之則行」章〕雖有至徳、苟不知先王之道

不知先王之道、而有至徳於身者、吾未之聞也。彼豈以口解（？）老荘達磨之類、為至徳与、則辞失倫、若孔子所称、曰周、曰文王、曰太伯、是已。？

伯夷章

不以喪位為怨、帰仁人而楽之。

若徂来之説、是伯夷之不怨、西伯之賜也。設令当時無西伯、伯夷求仁而弗得焉、則呑怨而入地者、其何賢〔13 b〕之有。孔子輒周天下、而無所遇、夫豈不欲得西伯而帰焉。弗得也已、徂来豈以孔子為怨耶。

発憤章

「云爾」、「云々」「爾々」、古言相通。

徂来之不知文辞若斯、宜其著作之不可読矣。

非生知章

〔＊朱注〕「『敏』速也。謂汲々也」。此解殊模稜。

「汲々」唯恐不給之意、与「黽勉」稍不同。彼同執「黽勉」解、故為模稜耳。

「敏」之所以為「汲々」者、非本有敏速之義耶。何模稜之有。

互郷章

朱子疑其有錯簡闕文、亦不識古文之過耳。

〔14 a〕

是章為錯誤決矣、「与其進」二句当在「不保其往也」下、則文意甚順。徂来之説不待辨、而其不識古文之過、不足責矣。＊

【校勘】○責…賚（「たまう」）のようにも見える。

陳司敗章

可謂非若宋儒所謂「一疵不存」之比矣。

行文拙甚。「可謂」二字当削。

文莫我猶章

上有「也」字、下無「也」字、下有「則」、上無「則」、是「文」与「躬行君子」対言者非也。

以「則」「也」有無証対不、是何足也。浅哉、徂来之為古文辞也。

〔14 b〕

聖与仁章

是或人賛孔子——故知此必孔子承人賛之者也。

是攘朱註晁氏説、乃辞気横発、若独知者、可憎。豈欲以嚇晩学小子邪。抑自欺也。

〔追加〕

堯舜禹湯周公云々。

彼見文武之不制作、意謂不是聖人。雖不敢公然作説、然視其列叙先聖而不及文武、則其意亦見矣。堯舜禹湯周公、豈有此語哉。是徂来之私言、侮聖之甚者。文武既（？）亦聖、則孔子亦作聖、所以徂徠於孔子之聖嘗費分疏、秖見其窘。

「唯」「是」也。「正唯」如後世「政爾」。

「唯」与「惟」同。古来未有訓「唯」為「然」為「爾」為「是」者。若「男唯女兪」並称諾之声。亦不曰訓為「然」「爾」「是」。

請祷章

「假爾泰筮有常」〔＊『礼記』曲礼上、『儀礼』少牢饋食礼〕。

〔15 a〕是「爾」字亦「女爾」之「爾」指筮而言、如『毛詩』楽女無知之

類已。徂来援之証「爾」之為助辞、正自毀也。

○泰伯

周家必張而不臣之迹成矣。——

「三分天下、有其二、而服事殷」、西伯純臣也、徂来豈以文王為不臣耶。誣聖之罪不容誅。

蓋民之附泰伯、如蟻慕羶。

徳如斯、何以知其不及文王也。且是語無以徴、特其臆度云。何無定見至乎此。

〔追加〕

上文既云所謂泰伯之徳足有天下——宋儒不信孔子之言而求至徳於其外、豈不謬哉。下文乃云民之附泰伯如蟻慕羶。

是猶非不信孔子之言而求於其外哉。抑天下之民附之如蟻慕羶而不有天下者、吾未之聞也。其説之矛盾有如此者。

〔15 b〕

不在其位章

辟如登浮屠——必有昧乎事而誤焉者也。

是徂来自謂也。曹劌有言曰「肉食者陋矣。不能善謀」。夫位愈高識愈下者、滔々皆是也。焉得以浮屠為譬。徂来見識之陋、豈為其位下耶。又曰「身不任而輒言之、非所以敬天也」。謀本与言殊言之、豈罪也哉。果如其説、孔子亦不敬天者。矧其他乎。至其所著『政談』一書乃実不敬天之大者、不知彼何辞以自解焉。且其書談当世之務、往々摭刑不〔16 a〕字之遺、或迂闊弗可行者、乃自以為先王之道。浮屠之譬、昧乎事而誤焉者。猶信彼豈以己之如斯、遂欲以蔽千古聖賢乎。可笑。

狂而不直章

朱子引蘇氏——亦失之。

引蘇説正以解上三句之意。「吾不知」之句、本註既詳之、何必重複容無用之辨。是朱子之註法可謂精矣。夫以教為解*、雖徂来不能不拠「吾不知」句、蘇氏説中有一字及其句者耶。蓋蘇氏別有解、〔16 b〕是句数語而削之耳。彼麁性不能瞷矣。

【校勘】○為解…消しているように見える。

大哉堯章

蕩々乎民——乃允恭克讓也。

堯之徳不可名焉。只得曰「允恭克讓」、形容其一端耳。之四字豈足尽堯之徳哉。

上有也字、下無也字。

無「也」字是分明脱文矣。古書如此者、不可枚挙。彼乃枉為之説、何其陋也。

不過於利用厚生之事已。

彼毎執「作者謂之聖」語、以鑑定千古之聖、以為不作礼楽、雖〔17 a〕有徳、不足為聖。此乃言「伏犠・神ア*・黄帝不過於利用厚生之事已」。利用厚

生既非礼楽作者、豈足以為聖乎。其説之相矛盾、何至于此。

【校勘】○神…『論語徴』原文では「神農」。

○罕言章〔＊子罕〕

〔＊首章〕

唯見義理所在——充其蚯蚓之操、悲哉。

唯見義理而不問利害、何害於道。与孔子所謂「殺身成仁」何殊。充其操必為聖人而後已者、未知何以至於離世絶物。達磨恵能之術、所以傾倒一世者不過於利害二字、亦未知有義理者、蓋其相反如氷炭。然徂来何言之悖焉。是無他也。彼非特不知宋儒、而又不知達磨恵能也已。

〔17 b〕

宋儒唯見義理所在、而不問利害。故非其義也、一芥不敢取、与以独立于衰弊之世往々轗軻困約（？）而身不失為君子。徂来唯見利害而不問義理、故失身于権倖之家、而食不義之禄、白首講学而名不登于君子之籍、亦各行其志而已矣。所謂「道不同不相為謀」者、豈是之謂耶。

鄙夫章

何晏何故作此迂曲解——古時之言蓋有之。

為古時之言有徴乎。為相伝之説有徴乎。是皆無稽之語矣。是無他。徂来於是章不得解、故勉強従何註従為之辞也已。朱註之平易得其解也。何註之迂曲不知而作也、即謂何註皆古来相伝之説、則徂来何不悉従何註往々詆之也。縦令古時〔18 a〕実有是言、而出於老荘之言、害於道、焉可用解『論語』乎哉。況不可必乎。凡徂来所称相伝之説悉其遁辞耳。

偏其反章〔＊末尾、唐棣之華章〕

孔子解詩之言——

孔子之語是翻也已。翻遠為不遠、猶翻蔵為不蔵也。即以是為解詩、則左右采之不采耶。鐘致楽之不楽耶。不通之甚。

○郷党

召使擯章

学者徒読新註、至此章茫然。

朱子豈禁学者不読三礼耶。夫礼之名物度数繁浩、固宜於三礼詳考之。読『論語』固非其急、故註挙其大綱也已。所謂「茫然不識」学者不読三礼之過耳。朱子晩年於三礼最尽心焉、『経伝通解』〔18 b〕之述、徂来豈弗之聞邪。乃謂程朱出而礼楽移北、不韙之甚。彼又引三礼煩数為説、於是章之意、何所増減耶。抑亡論程朱、凡学者熟読三礼、因辨其儀容文物、当読『論語』、則学其躍如勃如鞠躬踧踖愉々与々如也已。未嘗「茫然」也。彼基（？）古註之焉得夫煩数哉。煩数者皇邢之疏、是也。夫学者不読三礼、而求儀容文物於『論語』之疏、不亦末哉。拠失註当是、使人読三礼也。若疏及徂来、謂不必読三礼也。当言熟三礼而後『論語』可得而言即熟三礼者焉須是喋之哉乎。

席必遷坐

席者燕席——斉以立為主故也

〔履軒見せ消ち約十三文字解読不能〕

〔19 a〕

○先進

長府章

如刑罰中、亦謂古典也。

言之妄有如斯者、刑罰中乎古典、豈成語乎哉。刑罰中乎罪、不可謂中、則射中乎的、不可謂中也。及上文「聖人之道、有倫、有慮」云々、可謂睡語矣。

善人之道章

如「大王肇基王迹」言至大王而始践古先聖王経営天下之迹也。

是詩自後称之言、文武之王道始于大王、故謂之王迹。如徂来之解、「迹」字猶可言也、「肇」「基」二字不通。夫「基」者立基趾也。始云基趾而倣先王、豈成語哉。徂来之窒塞不亦甚乎。

〔19 b〕

○顔淵

克己章

非礼者謂似礼而非礼者也。『孟子』所謂——可以見。

是解之妄、弗復待辨矣。

仲弓問仁章　司馬牛問仁章

如徂来之解、是誨仲弓以為国君後之事也、非当身之事。如是仲弓雖有才与徳与志、未為国君、則雖欲行仁而不可得也已。且也匹夫舎其当身当為之事、懸度学国君之事而師也亦以是為教、不亦不韙之甚乎。

盍徹章

及其曰「二吾猶不足」而有若悟哀公之意。故言——

然則有若「盍徹」之対妄対失言耳。而後言回護牽合之説〔20 a〕也、可鄙矣。不足尚也、其何記在『論語』也。又曰「不爾問答不相応」、豈不誠迂乎。咄、徂来亦猶哀公耳。

成人之美章

学者忽観此章、必沮壊其悪。又云、朱子之解或有是弊。

本文曰「君子成人之美、不成人之悪」。無毫髪沮壊之意、自有『論語』以来、亦未嘗有作沮壊悪解者。徂来豈当謬解不成為毀耶。不則何誣学者之至此也。朱註亦無毫髪沮壊之意。可謂誣駁。

樊遲舞雩章

樊遲録而地焉、後君子従而弗削焉。

徂来以是章為本出於樊遲手記、有何徴也。其妄有如斯者。

〔20 b〕

○子路

泰而不驕章

仁斎未免倭訓読字抗志解古文、可謂不自揣之甚。

衛霊又（？）「矜而不争」条下又駁仁斎而曰「是其欲刪朱註別成一家者、豈非立異以為高哉。悲哉」。夫子自道也。

○憲問

莫我知章

天命孔子以伝先王之道於後世、而不使行道於当世、是天之知孔子也。徂来豈謂伝道於後世孔子之所長、而行道於当世孔子之所短乎。誣聖不亦已甚乎。且如其説、孔子歴聘周流於天下求道於当世、無所遇而帰魯。年既六十有八、乃始刪定六経為伝於後世之計、何聖人之不知天命之甚也。然則其五十知天命云者、非誇言邪。

〔21a〕

闕党童子章

「曲礼」曰「問士之子、長曰能典謁、幼曰未能典謁也」。童子将命、亦古之道也。

士位卑乏於使令之人、故子長則亦可典謁耳。典謁豈必童子之職也耶。大夫以上不乏於使令、豈必使童子充其職。孔子之門、執典謁之役者不乏而使童子為之、故或疑之耳。「曲礼」言長幼、徂来断以長為童子、有何徴「曲礼」之文。又挙対問之語、示謙耳。即以為古之道固矣哉。且其上文曰「問大夫之子、長曰能御」、以童子為御者、古之道耶。下文曰「問庶人之子、長曰能負薪」。使童子負薪、古之道邪。「曲礼」又曰「士辞以病。言曰『某有負薪之憂』」。士之躬負薪、亦古之道耶。

〔21b〕

○衛霊

貞而不諒章

「諒」者、謂求信於人也。如「亮察」「亮鑑」、皆求信意。甚矣哉。物翁之闇於文字也。「亮察」本「請亮察」「幸亮察」之略語、与「照察」「照鑑」意同。「照」字豈有求照於人之義、然句端宣「亮察」「照鑑」、雖無「請」「幸」字、為「求諒」「求照」之義。是固俗套文字不足以語文章。徂来毎言以古文徴古文、今乃挙俗套文字欲以解『論語』、何鑑也。

又甲、『易伝』以「正」解「貞」、音近故也。

音近而相通者、古有之、以音近而義相関者、古無之。

○季氏

三畏章

「畏」者「威」之転音。

〔22a〕

「畏」「威」同字、不特転音。徂来好説古字通用、大率牽合附会。至于同字者、却不之知、僅以転音為説、可憫夫。

又仁斎言「吉凶禍福」而不言「順逆」、故足為君子之畏乎。

又曰、『孟子』所以謂一夫紂者、以明之所棄即天之所命也。

「故」字与「乎」字不相応。〔追加〕「即」字「命」字不可暁、〔追加ここまで〕徂来之拙乎文、往々如是。不勝枚挙。

又聖人尊天之至、唯曰「天知我」、而未嘗曰「知天」焉。

聖人即不知天、何知天之知我、而敢言天知我也。故天知我者、便知天者之語矣。若曰我雖不知天、就中唯知天之知我、豈有斯理乎哉。徂来之泥乎文、若是乎。

○陽貨

性相近章

孟子則主仁義内外之説、豈一哉。

告子以為仁内義外、孟子則謂一是在内、然則仁義内外之説者、可以語告子、非所以論孟子也。徂来之疎於修辞、往々如是。

〔22 b〕

武城章

呉有子游祠、則子游亦終有悟於孔子之言、遂不終為魯臣而去歟。

夫先哲之感後人、遠矣。至其邑人子弟往々為立祠致欽慕之意以為閭里之栄、不必其丘墓也。『史記』称「言偃、呉人也」。呉人之立祠、不亦宜乎。若唐宋諸賢亡論其桑梓丘墓曆官州群皆立祠、可以見也已。徂来之謂、不亦泥乎。*

【校勘】○泥乎…以下、「以呉有子游祠、為其去魯而死于呉、無稽之甚。並彼好古、唐宋以下其為不足拠乎。楚有伍子胥廟至宋而□焉□」が塗抹されている。

詩可以興章

興者、従其自取、展転弗已、是也。朱註「感発志意」者、観也、非興也。

〔23 a〕

本文下箇「興」、宜就「興」字求其義、則興「作興」「興起」之興。朱註感発意志、不亦善乎。如徂来説、是「取…已」二句八字、莫一字当「興」字。然則本言何故不言「詩可以取」而言「可興」。是知非変改『論語』本文、不能充徂来之操矣。

牆面章〔*子謂伯魚章〕

後世儒者——窮措大解。

所謂後世儒者、主朱子而言也。朱子生於宋末、雖不得遭遇而行道、而当世士流其景慕者至矣。其修身制行固非徂来之徒所与知、姑就其外者而論之。一時豪傑如陸子静雖学不合、猶言朱元晦泰山喬嶽天下第一人、陳同父言「朱元晦人中之龍也」。其餘可知矣。其高臥山林天子虚懐望来宰執以下、忘其勢致書通慇懃、勧其一出一歩向関（?）天下士庶黔（?）首相一視其風采、然而無所遇天也。然則其為当世士君子也、〔23 b〕可謂有餘矣。然若謙之未自足者、何也。非未至聖人耶。徂来乃為朱子願為当世士君子、是欲責虎以為羊、推豫章為獼猴之杙也。不亦悖乎。徂来豈以政事而言耶。朱子治荒政鋤豪猾字（?）憔悴為仁政於不可為之時、救人於死数十万矣。社倉之政、遂為天下之法、載在史冊、風声布天下、豈重来山謝老（者）（?）邪。一時姦邪韓侂胄之徒実（?）恐其為大用而害□也（?）百計沮之鍛錬羅織、然而道学之目興焉。徂来亦好以道学相垢罵。噫、徂来亦韓侂胄之徒也。朱子罷官廃処、清貧不自給景如（?）也。徂来豈以是為窮措大解。夫貧士之常時不我以豈冒昧争利禄取富貴乎哉。即以是相罵乎。孔子在陳絶糧、孔子亦窮〔24 a〕措大耶。且徂来功名利禄之徒耳。故謂士雖知読書論古、能修身正行而不得位而治民者挙窮措大也。今姑以功名利禄而論之、朱子雖不居宰相之位以握天下之柄而官領州牧、而職侍従、爵侯伯、而禄万鍾、正笏上殿親与天子上下其議論、亦不至於徂来饔斗升之禄、淪身於嬖倖之門。〔見せ消ちあり

…解読難〕窮措大之目将何所帰也已。抑□□□儒□斗巫医倡優□十技者、無以異也。抑徂来以其剽窃韜襲文辞、眩惑愚人、誤致虚挙、而名不得上於君子之籍者、豈不以復得無可称耶。〔24 b〕即若徂来者務学以為当世士君子、固其所也。其不敢永為聖人、亦自知之明、不可誣者、而為当世士君子所鄙笑。可憫夫。

礼云章

其人不尊信聖人——

其人未尊信聖人、而吾教之欲其尊信、則不以言導而何以哉。孔孟轍固於天下欲一遇於尊信聖人之君而弗可得道（?）、必也教之誨之、使知尊信聖人之道、而後聖人之道、可得而行矣。乃一任邪説之横流而弗之辨、竢人之自悟而尊信聖人、豈孔孟遑々望天下之治之意也哉。

〔25 a〕

古之矜章

「鰥」「矜」通用。老而無妻亦自守太過者所為也。

妄言有如是者、不復用辨之。

○微子

逸民章

其所以隠居者在潔其身、是合於古聖人之道、故曰「身中清」。

徂来常執「作者謂之聖」之語、曰「後儒皆不知聖字」。故於孔子聖若有所慊。然輒迂回其説曰「孔子有当制作之任之徳、得時当制作、故謂之聖耳」。今言聖人有隠居之道、制作与隠居、何啻天渕。可見遁辞之出於窮矣。彼又絀宋儒以独善其身、曰「是達磨恵能也已」。何不罵虞仲為達磨、呵夷逸為恵能、乃言潔其身合於聖人之道、豈載在『論語』者不能啓啄乎。是不然也。徂来〔25 b〕於儒者莫不詆譏。唐宋以下為無知、雖似取漢儒唯□*其近于古而取其相伝之説而已。故曰「漢儒笨乎」。曰「漢儒卑陋」。至于子思孟子最其冠讐耳。其侵陵業已如是、即遂詆孔子、則世人必目以異端、不復以儒者視之。徂来之所憚、唯斯而已矣。故毎迂回穿鑿自附于孔子、以欺弄聖人語以済其邪説耳。彼蓋亦不自信其説、徒以媚于世云爾。噫、功利之徒、可与言乎哉。

【校勘】○□…「取」を見せ消ちする。「考」か。

亜飯干章

今有亜飯而無初飯、則知初飯不須侑也。

楽為侑食、則初飯固無須用。然以『論語』之文為証*則謬矣。当時若有初飯而其人或困循不去、或有他故不及行、記『論語』者必書中*「初飯某則不去」乎。是理之所無矣。

【校勘】○以『論語』之文為証…「徂来之説」を見せ消ちにして書く。○書…「記」を見せ消ちにする。

〔26 a〕

八士章

今俗悪双生、必殺其一、原諸人情、雖古亦然。

余生長於王畿之内、見愛養双生衣服帯舄粲乎如連珠者。未聞有悪双生而殺其一者。訪之故老莫不然者。或東陲西裔薄悪之俗、適有之耳。徂来生長於

東陲適見之、未知王畿之内無是悪俗也。乃謂海内皆然、不亦誣乎。乃遂謂三代之治而嘗有是俗、不亦已甚乎。且父母殺子、謂之人情、豈儒者之言也哉。大凡其偏見無稽敢言不慚者、皆類乎是。然世人闇乎文字者、往々為其恐嚇吠影伝声、為明智之儒雖有明辨審析以闢之、而不能信也。故是一節雖細瑣不足辨者、揭而示之、盍視於斯以概其餘焉。

〔26 b〕

○子張

信而後労章

後世浮屠尚能窺是意。其言曰「仏法大海信為能入」。

浮屠所謂信以信法而言。意謂唯能信法之人可以入道也。非人信我之謂也。乃援以為据而不知其説之相悖也。徂来之鹵莽如斯。

○堯曰

夏道篆文相近〔＊首章〕

篆文夏与道相去天淵。徂来蓋不知篆文妄大言誑無知者。小人哉。

不知命章

注疏本此章作「孔子曰」、朱子本作「子曰」。

是細故、何足論。彼輒拾掇指斥所以求疵於朱子者、可謂不遺餘力矣。特不知作「子曰」於文為順、非所以為疵也。〔27 a〕且以余所覩、唯皇疏本作「孔子曰」、昺疏本有二本、一作「子曰」、一作「孔子曰」。嗟乎、徂来之不博於聞見、因不足責而小人之状態発露無餘、孰謂細故而可忽哉。

〔28 b〕

大聖亜聖大賢

吾試有問於徂来曰「堯舜禹湯文武周公、聖人与」。彼将曰「然」。「孔子亦聖人与」。彼将曰「然」。「顔子聖人与」。彼必曰「非聖人也」。「然則賢人与」。彼必曰「然」。「然則与宰我子貢有若等与」。彼必曰「顔子庶幾乎孔子者、悪与之数子等」。「然則宰我子貢有若非賢人与」。彼必曰「否。皆賢人也」。然則顔子之賢大於宰我子貢有若、而庶幾乎孔子者也。孔子聖人也。庶幾乎聖、故謂之亜聖、何不可之有。彼雖不喜孟子極々醜詆、亦必不以為宰我子貢有若之等也。亦必不敢与顔子同科也。然則孟子之賢出於宰我子貢有若之賢而為顔子之次也。故謂之大賢亜聖之次、亦何不可之有。

〔原裏表紙〕

〔29 b〕

徂来　外乎礼而語（？）治心之道、皆私智妄作也。

（大阪府立工業高等専門学校准教授）